

中学3年1組 音楽科学習指導案

指導者 小 村 聡

1 題材名 アカペラ混声四部の響きを味わおう ～「フィンランディア」～

2 題材のねらい

声部の役割と全体の響きとのかかわりをテクスチュア（音や旋律の組合せ方、和音や和声の構成）に着目して考え、表現を工夫しながら合わせて歌うことができる。

3 授業の構想

(1) 1学期の混声四部合唱「大地讃頌」の取り組みの中で、響き合う合唱になるために大切なことは何かを問いかけたところ、子どもたちから次のような意見が出た。

- ・音程を合わせる ・声質をそろえる ・発音をそろえる ・互いの声をよく聴く
- ・パートのバランスを考える ・音（和音）の構成を理解してバランスをとる など

これらの意見から、「音程を合わせること」と「声質をそろえること」に重点を置き、パート練習及び女声（ソプラノとアルト）、男声（テノールとバス）での合同パート練習を経て、ピアノ伴奏なしでの合唱に取り組んだところ、次のような感想が得られた。

今日は、音程と声質を意識して取り組みました。ソプラノとアルトが同じ音になるとき、はじめは声が全く違うように感じていましたが、やっていくうちに1つの音のように聴こえて、すごいなと思いました。この2つのことを意識して周りに耳を傾げるだけで、こんなに声が響いて美しいハーモニーになるんだなと思いました。（生徒A）

生徒Aは、一人一人の音程と声質がそろえることによって、何人もが同時に出している歌声が溶け合い1つになり、響き合っていることを感じている。これは、音と音とをどのように重ね合わせると響き合う合唱がつかれるかということを理解していると考えられる。

以上のような子どもの姿から、本題材では、声部の役割と全体の響きとのかかわりをテクスチュアに着目しながら合唱する活動に積極的に取り組む子どもたちの姿を目指していきたい。

(2) 本題材では、学習指導要領A表現（1）ウ「声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。」についての学習を行う。

第1次第1時では、まず「ふるさと」（高野辰之作詞／岡野貞一作曲／若松正司，ショマ・サボー編曲）を聴き、アカペラ合唱の特徴やよさを見付け、それを全体で発表し合い共有する活動を行う。耳慣れた「ふるさと」を男声アカペラアンサンブルで聴かせることで、アカペラへの興味関心を高めようと考えた。そして次に「フィンランディア」に出合わせる。フィンランド語での女声合唱版と日本語詞による混声四部合唱版（土肥武日本語詞／J. シベリウス作曲／橋本祥路編曲）を聴かせたのち、各パートでの音取りを進め、音程がある程度つかめたところで、女声、男声ごとの合同パートを行って音程を確実にしていく。第2時でも各パート及び女声、男声ごとの合同パートを経て、4パートでの合唱へと進む。そして、混声三部から四部が変わることによって生まれる響きの豊かさに気付くよう、9小節目に

ポイントを絞って歌わせながら問いかけていく。

第2次第3時（本時）では、ストレッチと発声に次いで、各パートでの音程の確認を行ったのち、4パートでの合唱を行う。合唱では、混声四部の響きの豊かさは、何によって生まれるのかを問いかけていく。そのために音と音の横と縦のかかわりに着目して、9小節目からバスを抜いて歌う場面やバスの G→G→Fis→E の音進行を G→G→G→E で歌う場面などを設定する。「男声が2パートに分かれることによって厚みが生まれる」「アルトとテノールが同じ音を歌っているときにソプラノの音程が上がり、逆にバスは下がる」「同じ音でスタートしたアルトとバスが、4拍目でバスが半音下がり、一瞬音に緊張感が生まれる」などに気付くよう問いかけていく。音を言葉で表現することは難しく、なかなか言葉にならないことが予想され、子どもたちからは抽象的な言葉が出てくるであろう。それをしっかり受け止め、その思いや意図を深めていけるよう問い返しながら行う。さらにその部分を何度も歌いながら子どもたちの気付きを音としても確かめていきたい。

第4時では、前時に探ったテクスチュアを手がかりに、各パートがどのように歌うと全体として響きの豊かさが引き出せるのか、各パートで歌い方を探り、各パートでの意見をもとに全体で合唱する。

4 展開計画（全4時間 本時3/4）

次	時	主な学習と具体的な学習・内容	◇願う子どもの姿
1	1	○アカベラ合唱の特徴やよさを見付け、音取りをして合わせて歌う。 ・アカベラ合唱の特徴やよさを見付ける。 ・「フィンランディア」に出会う。 ・各パートで音取りをしたのち、女声パート・男声パートで合わせて歌う。	◇気付いたことや感じ取ったことを積極的に伝える姿 ◇2パートずつの合同パートで、声(音)の響き合いを高めようとする姿
	2	・各パート及び女声、男声での合同パートで音程を確認したのち、4パートでの合唱をする。 ・9小節目にポイントを絞り、四部が変わることによって生まれる響きの豊かさに気付く。	◇気付いたことや感じ取ったことを積極的に伝える姿
2	③	○混声三部から四部が変わった部分の響きの豊かさの要因を探り、その部分の歌い方を考え、全体の響きを味わう。 ・各パートで音程を確認して、4パート合わせて歌い、9小節目の四部が変わることによって生まれる響きの豊かさをテクスチュアに着目して探る。	◇気付いたことや感じ取ったことを積極的に伝える姿
	4	・各パートがどのように歌うと響きの豊かさが引き出せるのか、各パートで歌い方を探りながら練習をする。 ・各パートでの意見をもとに全体で合わせて歌う。 ・ホモフォニーなどの合唱様式の歴史的背景を知る。	◇試行錯誤しながら自分の考えを積極的に伝えたり、表現しようとしたりする姿 ◇各パートの歌声をよく聴き合い、表現を高めようとする姿

5 本時の学習

(1) ねらい

混声四部の響きの豊かさをテクスチャ(音や旋律の組合せ方, 和音や和声の構成)に着目しながら探ることができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. 前時までをふりかえり, 本時のめあてを確認する。</p> <p>2. ストレッチと発声をする。</p> <p>3. パートに分かれて練習をする。</p> <p>4. 合唱をしながら, 混声三部から四部に変わることによる響きの豊かさを音と音のかかわりから探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男声が2パートに分かれる。 ・ バスが低音域を歌うことによって深みが生まれる。 ・ 9小節目から10小節目にかけて, アルトとテノールが同じ音を歌っているのに, ソプラノとバスは広がるように歌っている。 ・ 9小節目で同じ音でスタートしたアルトとバスが, 4拍目でバスが半音下がり, 一瞬不協和音になる。 <p>5. 本時の学習をワークシートで振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1つのパートの音の動きの変化によって聴こえ方が変わるので, どのパートもそれぞれの動きを大切に歌わなければいけないと思った。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>響きの豊かさを音と音のかかわりから探ろう!</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ めあてを示しながら音と音の「横」と「縦」のかかわりを問いかける。 ・ ストレッチと発声は, 常時行っているパターンとメニューを行うが, 生徒の反応, 声の状態によって臨機応変に行う。 ・ パート場所は, あらかじめリーダーで決めておくようにする。 ・ パートリーダーを中心に音程を確認するように伝える。 ・ 音程に加えて, 声質もそろえるよう指示する。 ・ 拡大楽譜を掲示し, 音や旋律の組合せ方などが視覚的に共有できるようにする。 ・ 9小節目からバスを抜いて歌う場面やバスの音進行を G→G→G→E で歌う場面などを設定する。 ・ 子どもたちの言葉をしっかり受け止め, さらにその言葉を深めるよう問い返す。 ・ 何度も歌いながら子どもたちの気付きを音として確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点 (音楽表現の創意工夫)</p> <p style="text-align: center;">混声四部の響きの豊かさをテクスチャ (音や旋律の組合せ方, 和音や和声の構成) に着目して考えようとしている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 演奏・観察・ワークシート】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱の響きの豊かさには, 音や旋律の組合せ方や和音や和声の構成がかかわっていることに気付き, 今後の合唱活動につなげようとするふりかえりにする。

